|  |
| --- |
| 令和4年度  **九州各県内科会会長会議** |

日時：令和5年1月28日（土）　15時00分～17時00分

会場：オンライン（那覇市医師会館および九州各県会場）

担当：沖縄県内科医会

**令和4年度 九州各県内科医会会長会議**

**出席者名簿**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **内科医会名** | **役職名** | **出席者名** |
| 大分県内科医会 | 会　　長 | 井上　雅公 |
| 常任理事 | 吉賀　攝 |
| 長崎県臨床内科医会 | 会　　長 | 中西　俊明 |
| 副 会 長 | 大津留　泉 |
| 副 会 長 | 林　郁夫 |
| 熊本県内科医会 | 会　　長 | 藤山　重俊 |
| 副 会 長 | 水足　秀一郎 |
| 副 会 長 | 野津原　昭 |
| 福岡県内科医会 | 会　　長 | 江頭　芳樹 |
| 副 会 長 | 上野　俊幸 |
| 専務理事 | 長尾　哲彦 |
| 鹿児島県内科医会 | 会　　長 | 福元　良英 |
| 副 会 長 | 有馬　新一 |
| 副 会 長 | 花田　修一 |
| 佐賀県内科医会 | 会　　長 | 中山　利浩 |
| 宮崎県内科医会 | 会　　長 | 比嘉　利信 |
| 沖縄県内科医会 | 会　　長 | 友利　博朗 |
| 副 会 長 | 田名　毅 |
| 専務理事 | 宮城　政剛 |

**令和4年度 九州各県内科医会会長会議**

日時：令和5年1月28日（土）　15時00分～17時00分

会場：オンライン（那覇市医師会館および九州各県会長）

**次　第**

司会・進行　沖縄県内科医会　●●　●●　●●

**１．開会挨拶**　　沖縄県内科医会　会長　友利　博朗

**２．報　　告**

　１）令和4年度 日本臨床内科医会九州ブロック会議、第57回九州各県内科医会連絡協議会、

第39回九州各県内科審査委員懇話会について（沖縄県）

　２）その他

**３．協　　議**

　１）提案議題

　（１）組織強化への取り組みについて（大分県）

（２）リフィル処方箋への対応（福岡県）

　　（３）オンライン資格確認を拙速に進めるのではなく、状況に合わせて柔軟に取り組んでいただきたい。（福岡県）

　　（４）九州各県共同の取り組みについて（福岡県）

　２）令和5年度 第58回九州各県内科医会連絡協議会および

第40回九州各県内科審査委員懇話会の開催日程について（大分県）

　３）その他

**４．フリートーキング**

**５．閉　　会**

**２．報　　告**

**令和4年度 日本臨床内科医会九州ブロック会議、第57回九州各県内科医会連絡協議会、第39回九州各県内科審査委員懇話会について（沖縄県）**

　昨年の宮崎県から引き継ぎ今年度は沖縄県が担当させていただき、去る令和4年11月12日（土）に開催いたしました。

当初は3年ぶりとなる現地開催を目指し準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の勢いが止まらない状況により、今年度の開催も残念ながらZoomを用いての那覇市医師会館、九州各県会場を結んで完全Web会議となりました。

　日臨内執行部より会長の望月紘一先生、副会長の菅原正弘先生、江頭芳樹先生（福岡県内科医会会長）と九州各県より約53名の役員が参加され、前半の1時間は日臨内九州ブロック会議、後半の2時間は九内協、九内懇が並行して開催されました。

　日臨内九州ブロック会議では、冒頭に望月会長からご挨拶を頂きました。菅原副会長から医学会・総会の次回開催予定、「かかりつけ医のためのWEB講座」の進捗状況、J-DOMEへの参加依頼等の日臨内の現況報告と、日臨内の定款変更についての概要が説明されました。その後に本会議に入りました。

日臨内への要望事項は6題ありました。要望事項の3題はリフィル処方についての内容でしたので一括して協議が行われました。また、他に新型コロナウイルス感染症後遺障害、「かかりつけ医」機能の制度整備、オンライン資格確認について話し合われました。それぞれについて日臨内執行より丁寧な回答を頂き、それらの要望について各県の同意が得られました。

　九内協では、各県から挙げられた協議題のうち、COVID-19に対する内服薬、オンライン診療、外来感染対策向上加算、コロナ禍における内科医会の運営、新型コロナ検査方法と、新型コロナウイルス感染症に関する議題が5題と多くを占めました。臨床内科医会の会員はまさに最前線でこれらの話題に向き合っており、時宜を得た議論ができました。

また、リフィル処方の導入に表れているように中医協の形骸化に対する懸念について望月会長、菅原副会長も参加されている場で意見交換をできたのは意義があったと考えます。後発医薬品使用体制加算に関して、要件の緩和はもちろんですが、医薬品を処方する医師の立場から国や製薬業界に意見することができるような道筋を作る必要性を感じる議論もありました。

　九内懇では、各県から14の提案事項がありました。検査、治療に関することが主ですが、今回は糖尿病の療養規則に関することが多かったという印象がありました。おおむね意見が一致した事項や、各県の取り決めに差異のある事例もありましたが、終始和やかな雰囲気で進行しました。

特筆されることとして、今後、全国的に統一化された審査基準をもとにAIによる審査が始まることです。大変重要な問題と考え、時間をかけて各県からのご意見を伺いました。全国基準を踏まえてAIによる審査が行われた場合に医師の裁量権がどこまで認められるのかということが最も重要なことです。今後、この点について注視していく必要があります。

　最後には

本会議の良さはface to faceの忌憚のない意見交換、情報交換にあると思っておりますので、次年度の対面開催に期待したいと思います。

**３．協　　議**

**１）提案議題**

**（１）組織強化への取り組みについて（大分県）**

**＜提案趣旨＞**

今後の組織強化に向けて特に若手医師への働きかけが必要と思われるが内科医会のあり方としてどのような魅力を提示できるか悩んでいる。プライマリ・ケア連合学会によるコンテンツ提供や保険医協会のような保険関連情報にはなかなか及ばない面もありどのような活動に取り組むべきか会長諸氏のご意見を伺いたい。

**（２）リフィル処方箋への対応（福岡県）**

**＜提案趣旨＞**

九医連では先日リフィル処方箋の撤廃を2024年改定へ向けて要望しました。

一方、日大病院ではリフィル処方箋を普及するように所属医師に伝達し広がっていると報道されました。ただ内容を見てみると、処方日数を30日に抑えるのを前提としています。

そもそもリフィル処方箋に賛成の医師は3％に過ぎず、ほとんどの医師が反対なのである。

その理由は

1．リフィル処方箋では長期にわたり健康状態が観察できない。

2．リフィルでなくとも長期投与で十分。

3．患者が長期にわたり処方管理ができるか疑問。

でした。

日大病院の場合は2にあたると思われる。すなわち90日処方と同じなのである。

またリフィル処方箋は広がりを書いており、現在でも1％に満たないと仄聞している。

よって患者、医療機関双方にほとんど利用されていないリフィル処方箋の撤廃を求める。

**（３）オンライン資格確認を拙速に進めるのではなく、状況に合わせて柔軟に取り組んでいただきたい。（福岡県）**

**＜提案趣旨＞**

　　　　　政府は閣議決定で2023年4月からの原則義務化を閣議決定し、療養担当規則を変更してまで導入を迫っている。例外規定（紙レセプトを使用している医療機関などが約1万機関）はあるがIT弱者に配慮し”期限ありき”ではなく状況に合わせ柔軟に取り組んでいただきたい。

**（４）九州各県共同の取り組みについて（福岡県）**

**＜提案趣旨＞**

現在、九州各県内科医会は、相互に情報交換しながら独自に活動を展開しているが、県レベルの動きではどうしても活動の範囲が制限されてしまう。

また、折角の良好な相互関係が生かし切れていない恨みもないではない。

そこで九州各県で共通の目標を共有し、実現に向けて協力してはいかがかと考える。

活動例としては禁煙、ワクチン、フレイル対策など、日常の内科臨床に即したもの（なかでも日臨内の活動と同期したもの）が考えられるが、実行可能性と各県の状況に応じて協議の上決定することが望ましいと思われる。

**２）令和5年度 第58回九州各県内科医会連絡協議会および第40回九州各県内科審査委員懇話会の開催日程について（大分県）**

**＜開催要項＞**

　　　　日時：令和5年●月●日（土）

　　　　　　　15：00～16：00（予定）　令和5年度 日臨内九州ブロック会議

　　　　　　　16：00～17：00（予定）　第58回九内協・第40回九内懇

　　　　　　　両会終了後・懇親会

　　　　会場：大分県●

　　　　　　　（所在地：●　TEL：●）

MEMO

MEMO